

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol 135】

株式会社上山製作所（東大阪支部）

今回は西日本プラスチック東大阪支部会の支部長に就任頂いている株式会社上山製作所の代表取締役会長 上山 欣秀様と代表取締役社長 上山 哲生様を訪ねました。

本社住所	東大阪市菱江 4-6-46
電話	072-973-8887
FAX	072-973-8880
資本金	1,000 万円
創業	昭和 28 年
設置成形機	射出成形機 45 トン～180 トン 計 9 台 ファナック製：1 台 川口鐵工製：8 台



（左）代表取締役会長 上山 欣秀氏

（右）代表取締役社長 上山 哲生氏

創業のきっかけ

創業のきっかけはまだプラスチックがない時代、祖父が天満の金属工場で自転車のベアリング製造に携わっていた頃にガラスや金属に代わって今後は樹脂製品の時代が来ると感じて創業したようです。

当時から社名に「製作所」と付けていましたが、元々は自社で製作を行っていたわけではありませんでした。創業は大阪市生野区ですが会社には成形機や工場はなく、顧客より製造の受注

を請け負って製造は外注に出していました。しかし、外注先の倒産等によって外注先が減少した為に自社で工場を持ち、成形機の必要性を感じて昭和 39 年の東大阪市への移転と同時に成形機を設置するようになりました。その後、時間の経過と共に成形機を増台し手狭になってきた事や建物の老朽化等から移転を考え始め、検討を重ねた結果、50 余年振りとなる平成 28 年 5 月に新社屋を竣工し移転しました。現在は工場内に 9 台の射出成形機を設置していますが、将来を見越し 12 台設置できる程スペースを確保した他、より厳しい製造環境や自動化への対応を前提とした設計にしました。



本社 外観
（平成 28 年 5 月竣工・移転）

主な製造品

現在当社で製造しているのは自社オリジナルの商品が約4割、受注製造品が約6割です。オリジナル商品は主に親子札やU型名札を製造しているのですが、中には特許を取得した商品もあります。特許を取得したのは「リクライニング機能」が付いたカードホルダーで、販売開始から相当な年月が経ちますが、形を変えて使われ続けており、現在は飲食店を中心に受注が非常に多い商品となっています。

他には医療用製品も製造しています。医療関係の製品は特に製造環境に気を付けており、新工場では密閉空間を作り「空気の流れ」をコントロールすることで、防塵対策を行っています。

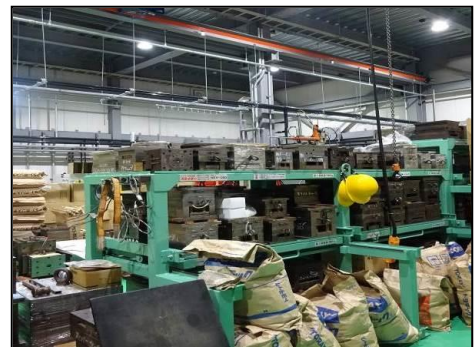


特許を取得した「リクライニング機能付カードホルダー」

自社の強み

当社の強みは幾つかありますが、ひとつは「より良いものへの探究心」です。「継続は力なり」とよく言いますが、私もその通りだと考えています。「今回の受注は前回よりも良いものができるか」ということを考えるように心がけていて、何か閃きや気付きがあれば改良案としてお客様に提案する様にしています。ただ受注があったから作成する、というだけでなく「さらに良いものができるか」を常々考えてさらに良い製品づくりへと繋げる。この考え方がお客様からの信頼に繋がっていると考えています。

もう一つは「仕事の確実性」です。当社はISOを取得していませんが、社内独自で定めた基準を設定しています。この独自基準と先ほどの「より良い商品づくりの探求心」が加わることで、お客様からは当社の「仕事の確実性」を高く評価いただいています。



工場内の様子

今後の経営について

日本における少子高齢化の加速が課題になると考えています。具体的には、「生産人口の減少、つまり製造業に携わる労働人口の減少」を危惧しています。現在でさえ中小企業、特に製造業は人手不足が深刻なところ、更に人口が減少して行くので、今からでも生産人口が減少する事を見越した体制作りを進めて行く事が重要だと考えています。金型や機械周りを整備し、労働者が少なくても仕事を回せるような環境づくりを進めて行きたいと考えており、新工場はこの様な自動化が実現できる様に設計しています。ただ、今話題になっている「AI（人工知能）」に頼るのはどうかな、と思っています。何らかの理由でウイルス等に感染することも考えられ、善悪の判断がつかずに思いがけない行動に出て取り返しの付かない結果になる可能性もあるのではないかと考えている為です。

協会への要望点

人材教育に力を入れたいと考えているのですが、中小企業はギリギリの人数で事業を行っているところが多いと思います。それは当社も同様で、従業員に講座等を受講させたくてもなかなか平日の昼間では出すことができないのが現状です。その為、人材教育のセミナーをできれば土日や平日夜間にも開催して頂ければありがたいと思っています。また、協会全般では「会員同士のコミュニティを広げる事のできる会」にして頂きたいと思っています。会合やイベント等で同業他社の方からお話を聞くと勉強になる事が大変多いので、是非このような機会を増やして頂ければと思います。

※ 会社を訪問して ※

日本の高齢化社会はニュース等で課題としてよく耳にしますが、生産人口の減少という事をお聞きし、改めて問題の深刻さを感じました。採用が難しい、最低賃金の高騰で増員が厳しい、という声は現在でもよく聞きますが、生産人口の減少が進むことでより一層厳しい環境になる事は明白ですので、是非「少人数で対応できる環境づくり」が進められたら再度お伺いさせて頂きたいと思っています。

◎ありがとうございました
取材：事務局 梅田・河合・山下

※本記事記載の情報については、2016年12月14日現在のものとなります。

掲載希望の方は

事務局(06-6214-8300)までご連絡ください。